

施設だより

平成会グループの各施設からのお便りをお届けします！



グループホーム なごみ

松本平と北アルプスを一望する最高の眺め
四季折々の自然を満喫する高台の静かな住まい



地域住民とも交流する 外出の機会をたくさん

買い物やお花見、ぶどう狩りなど、外出の機会をなるべく持つようになっています。住民の方からお誘いをいただき、公民館でのコンサートや文化祭など、地域のイベントへも足を運びます。地域の方々とのふれあいを大事にしています。

その日やりたいことは 日々柔軟に対応

利用者様が家にいるような過ごし方ができるように考えています。懐メロを歌ったり、天気がよければよく散歩にも出かけます。予定や決まりにとらわれ過ぎず、その日の職員の状態などに合わせて、臨機応変に対応しています。



住所 長野県松本市
寿北5-34-23
開設 2003年3月
定員 18名(2ユニット)



管理者より

平成会に入職してから約20年、このグループホームに勤めています。職員の支えがあるからこそ長くいられると感謝しています。利用者様にもご家族にも安心していただける施設をこれからも目指します。



黒澤 るみ子さん



その人が“できること”を 見極めケアするスタッフ

職員が心掛けているのは“さりげない介助・援助”。利用者様に寄り添い、その方ができることを見極め、強制にならないようにケアを行っています。コロナ禍でできなくなってしまったことを少しずつ元に戻せるよう頑張っています。

Let's! 互助会

昨年末、平成会互助会では大忘年会を開催し、職員・関係者合わせて約240名が参加しました。殺陣ちむむパチボコ様の演舞で会に花を添えていただき、恒例の大抽選会では豪華賞品の数々に歓声が上がりました。お互いの1年の労をねぎらい、大規模な交流の場として多くの笑顔が見られました。

2025年度、互助会ではボウリング大会、東京ディズニーリゾート、ユニバーサルスタジオジャパン、大阪・関西万博への旅を企画し、大勢の職員が参加しました。今後もより多くの職員に楽しんでもらえる企画づくりに努めます。



編集後記

「平成会通信」創刊から5年。毎号、各事業所の皆さんに話題や記事の提供でご協力いただいております。おかげさまで20号という節目を迎えることができました。キャッチコピー「介護のいまを知り、みらいを創る」を念頭に、これからも法人の活動、取り組みを発信してまいります！



みやざわ

社会福祉法人 平成会

●●● 介護はこころ ●●●

真心と幸せ、そして心の豊かさを感じられる生活を送っていただけるよう、今日一日、その全てに一期一会の精神で臨み、「共に歩む」の法人理念を実践してまいります。



平成会通信

Heiseikai Magazine

Vol.20

2026 冬

特集

コロナ禍を振り返り、次に備える！
尾身 茂さんを招き
県民公開講座を開催



冬こそ明るく
色とりどりに

介護のいまを知り、みらいを創る

コロナ禍を振り返り、次に備える！

尾身 茂さんを招き、県民公開講座を開催

平成会研修センターでは毎年、医療介護分野における先進的なケアや業界のトレンドをいち早く取り込めるよう、諸団体の代表者や先駆者である方々をお招きして公開講座を行っています。昨年11月は、元・日本政府新型コロナウイルス感染症対策分科会会長、尾身茂さんによる講演会を開催しました。「新型コロナウイルスと闘った1100日間の葛藤」と題した講演のあらましと、平成会職員との座談会をレポートします。



尾身 茂

WHO(世界保健機関)西太平洋地域事務局 名誉事務局長
公益財団法人結核予防会 理事長

講演会あらまし

2025年11月21日(金)、茅野市民館マルチホールには、平成会職員のほか、事前申し込みがあった医療・福祉関係者、一般の方など合わせて200名以上が聴講に訪れました。

「シルク産業で栄えた諏訪地域には、『あゝ野麦峠』のように女性工員さんが大勢働きにきましたが、結核で多くの方が亡くなりました。信州や岐阜の女性が命を削って経済を支えてくれた」と、感染症と諏訪地域との縁から話が始められました。「今回のコロナで、大変な思いをしなかった人は誰もいない」と尾身さん。日本での新型コロナ対策について、当時の実情を事細かにお話しいただきました。政府と専門家との関係は適

切・明確だったかどうか、専門家たちが前のめりに見えていたのはなぜか、などについても話され、メディアを通してしかわからなかった現場の裏側を知ることができました。

パンデミックの原因についての新しい考え方を示した尾身さんは最後に「ホモサピエンスにとって最大の脅威はほかの動物。しかしヒトは、情報を広く共有することで問題を解決してきた。ところが今は“情報が社会を分断している”時代。産業革命と同じくらいの変革で、最大の危機と言ってもいいかもしれません」と説きました。



参加者アンケートから

講演会を聞いて

ニュースで見ていたことの裏側、実際に何が起きていたのかよくわかった。とても興味深いお話でした。尾身先生や専門家の皆様のご尽力を知ることができました。(30代)

感染症に対して国がもっと積極的に動かなければならないと思った。専門家の意見は大切な情報なので、先手先手で行動しなければいけないと思う。(70代)

共通理解のもと議論する。客観的事実を踏まえた上でいろいろな意見を持つといった科学的な態度の重要性が印象的でした。自治体危機管理担当者としてコロナ対応にあたりましたが、よい振り返りの機会となりました。(30代)

ワクチンの効果検証など、数字をもとにご説明いただき、実態を知ることができました。(50代)

大変で終わらせずに、対応の振り返りと、次に来るパンデミックに備えていきたいと思えます。事実を知ること、対策やワクチン接種に対する正しい視点をしっかりと持つことができました。(平成会職員)



竹原 美津子

有料老人ホームせせらぎ
看護職員



酒井 義隆

介護老人福祉施設 福寿苑
介護職員

竹原 当時は現場に対して「こうしてくれ」という話がなく、私たちも不安でした。専門家と政府の間で葛藤があったと今日のお話で聞き、やはり簡単には言えなかったんだと知って、専門家の方々のご苦勞を感じました。

酒井 私たちもあの時期、葛藤がありました。でもそれ以上に、感染対策と社会経済活動をどう調整していくか、非常に悩まれたんだというのを聞かせていただきました。現場では、発症していない方も面会が制限されたり、部屋から出ないようにして、すごく自由を奪われてしまいました。ADL(日常生活動作)が落ちた方もいました。

尾身 介護・医療施設は、体の弱い人がもともといる場所なので、当初はやはりできるだけ感染を防ぎたかったでしょうね。感染者の行動調査によって、危険なのは「3密」だと我々はわかっていましたが、やはり感染の可能性をゼロにしたい気持ちが…それは日本社会全体にありましたね。今考えれば多少過剰だったかと思いますが、逆にそういう慎重さがなかったらどうなったかとも思います。感染者への差別・偏見が最初の頃ありましたね。そのくらい新型コロナは未知の病気、100年に1度の大変な状況だったわけで、介護・医療施設や学校など、はたしてどうすればよかったのかは難しいところです。

竹原 コロナを経験して、社会にとって逆によかったことはありますか？

コロナ禍で介護現場を支えた職員



尾身茂さん

座談会



尾身 今回の経験を通して、考えるべきことがあらわになりましたね。お話ししたとおり、第8波に比べたら第1波の感染者はごくわずかだったのに、なぜ1回目の緊急事態宣言を出したかという、その時は感染者を診られる医療機関が極めて限られていたから。一部の高度な医療機関が崩壊するのを防ぐために緊急事態宣言を出した。でも8波になると、診る病院が増えたとし、ワクチンを打って治療薬も出て、一般の人の不安感が減った。つまり医療体制がどうあるかによって対応が変わります。次にパンデミックが来た時、今度は最初から一般の医療機関で診るのかどうか、というのを考えなければ。次に備えてしっかり検証すべきですね。

酒井 また必ず来ると言われるパンデミックに対して、こういう準備が必要だというアドバイスはありますか？

尾身 介護・医療の現場においては、地域での連携を強化していくこと。これは絶対です。今回うまくやった所は、普段からの連携ができていましたね。あとは、状況を分析できる疫学の専門家を県単位で育てておくことや、差別や分断がないように、自治体がしっかり説明して間違った情報を訂正すること。先ほど話しましたが、今、情報によって起きている人間同士の分断は、本質的な危機です。恐ろしいことだと意識した方がいいですね。

今後取り上げてほしいテーマ、平成会研修センターへの要望

認知症予防と、家族で介護されている方々の話や負担軽減が聞きたい。(60代)

ユマニチュード、ジネスト先生の講演・交流。(60代)

一般参加者にも門戸が開かれありがたい。(30代)

中央の責任ある方の話を聞くことはめったにない。ぜひ今後も。(80代以上)

よい企画と講師の選定に感謝。(80代以上)

また話題性のある研修を企画してほしい。(60代)

その時々で活躍された著名な方の考え方や知らない体験談を聞ける機会。忙しい方ばかりで難しいとは思いますが、ぜひこのような機会を設けてほしい。(60代)

たくさんの方が参加できるように回数を増やせたら。(60代)

平成会の最新情報をお届けします！

平成会タイムス

2026
Winter

TOPICS 1

仕事終わりでも受けやすい時間帯に実施 介護福祉士国家試験に向けて対策！



毎年開催されている本講座は、介護福祉士の国家資格取得を目指す当法人職員をバックアップする狙いで開催されてきました。本年度は、地域貢献にも寄与するべく、受講対象者を一般の方にも広げ、多くの資格取得者を応援できる体制としました。さらに、講師を信州介護福祉専門学校の先生方に依頼し、全3回で開催しました。

多くの方が苦手とする「社会福祉制度」や、点数を落とせない「医療的ケア」、実務経験者が間違いやすい介護の問題など、出題傾向を熟知した現役教員ならではの、ポイントを絞ったわかりやすい解説をしていただきました。試験問題対策だけでなく、当日の時間配分や試験に臨む心構えなどもご指導いただき、受験生にはとても心強い内容でした。



TOPICS 2

平成会の思いと“今・未来”を1冊に 「平成会スタイルBOOK」が完成



平成会の最新の活動・取り組み事例や職員の日常業務シーンを豊富に掲載した、B5サイズ・24ページの冊子です。平成会を多くの方に知っていただくため、法人に関係する企業・団体、地域の方々、興味・関心のある方へと広く配布していきます。介護保険制度の創設から20年以上が経過し、日本は高齢社会の真ただ中にあります。高齢社会の到来と激変する社会事情の中、介護業界はさまざまな

課題を抱えています。時代が変わっても、私たちが大切にしている「介護は心」の精神。近年、飛躍的に進化しているケア技術、テクノロジー社会の到来、グローバル化、そして働き方の変化。刻々と切れ間なく変化する社会と向き合い、さらに進化を続ける平成会の今。利用者様、職員、そして地域のしあわせのため、進化を止めない「平成会」を1冊にまとめています。



TOPICS 3

「シーティングガイドブック」刊行を記念して 「よく座ること」を知る研修会を開催

平成会では、2016年に初めてシーティング研修を開催して以降、現場におけるシーティング技術の普及に取り組んでいます。このたび、株式会社シーティング研究所代表の木之瀬氏監修による、当法人オリジナルの冊子「シーティングガイドブック」を作成。刊行記念として、シーティング技術について多くの方に知見を深めていただく機会になればと、研修会を企画しました。

当日は、医療機関や福祉事業所で働く方から一般の方まで、70名ほどが参加。監修者である木之瀬先生から、ガイドブックに沿ってより具体的な説明を受ける講義と、シーティングに用いる機材を実際に使ってみる体験会の2部構成で行いました。多種多様なクッション、複数の多機能型車椅子の体験、圧分布測定により、座ることを可視化しました。参加者の方も楽しまれた様子でした。



「シーティングガイドブック」とは？

「シーティングガイドブック」は、初めてケアに携わる人にもわかりやすいように「シーティングとは何か」から始まり、「椅子編」「車椅子編」に分け、イラストや当法人における実際の事例紹介も交えて解説。家庭介護者から医療介護従事者まで、幅広い方に知ってほしいシーティングの基礎知識がサンプルにまとまった内容となっています。



参加者アンケートから

片まひの母が施設に入所。座り方が悪く、まひ側の手の拘縮が激しいままです。「シーティング」の言葉を聞き、手助けができるかもしれないと思い参加しました。講座はとてもよかったです。

50代・一般参加者

利用者様のシーティング方法を改めて学び直したいと思い参加。褥瘡予防や姿勢改善以外にも、摂食や筋力維持にも影響があることを認識できました。今後の関わりの中で生かしていきたいです。

20代・福祉事業所関係者

シーティングについて学び、入所者・利用者の対応に役立てられればと思います。入所者・利用者の機能を引き出せるよう、環境の設定について力を入れることが必要だと感じました。

40代・医療関係者

機能訓練指導員としてシーティングを依頼されることがあります。利用者様のことを想像しながら車椅子やリフトなど必要な調整をしたり、リフティングのケアの重要性を各視点でアピールしていくことが大切だと学びました。

40代・福祉事業所関係者

平成会スタイル

New Heiseikai Style

vol. 3

平日開店！ ちょこっと“喫茶” 介護老人福祉施設さわらび

専用スペースで2025年5月から
軽食喫茶をオープン！

平日 9:45～10:45 /
14:00～15:00
(午後は予約制)



各種飲み物、管理栄養士手づくりの定番喫茶メニューなど、お店のように選べます。



外出はあまりしたくないけど、お出掛け気分を楽しめるね



柿ピー付きの“朝ビール”最高だね！



ビール・日本酒・焼酎などのアルコールも販売

「外での食事はちょっと…」 「することがなくて退屈」という利用者様のために、館内で気軽に立ち寄れる喫茶をオープンしました。午前中のスキマ時間にどなたでも利用できます。厨房で作る朝昼晩の3食以外の飲食を、施設内でも楽しめる場所をつくる目的で、担当職員は作務衣に着替え、食器なども通常の食事とは違うものを使用。旬の食材を使った季節限定メニューも提供するこだわりが皆さんに喜ばれています。

各施設からの
フォト絵日記!

PHOTO DIARY

フォトダイアリー



岡谷市

介護老人福祉施設 松風

新年の準備

入居者様にお手伝いいただき、年末恒例のお餅つきを行いました。正月飾りのしめ縄を作ってくださいる方もいらっしゃいました。皆様のご協力もあり、いい新年を迎えられました。



松本市

デイサービス なごみ

お正月遊びと 繭玉作り

新年は、楽しい遊びや懐かしい繭玉作りが行われ、利用者様はにぎやかな時間を過ごされ、たくさんの笑顔が見られました。いろはかるた・繭玉作りの様子を写真で紹介いたします。

岡谷市

グループホーム 風薫

風薫の風物詩

【迎春】一年の健康と幸せを祈り(おとそ・おせち料理)で祝福。お正月と言えば、かるた・百人一首・福笑い。皆様とゆったり、まったり過ごします。中でも「書き初め」は力強く達筆、圧巻です。



平成会の
管理栄養士がお届けする
あったか
レシピ

心を豊かにする食事の提供を大切にしている平成会。平成会の管理栄養士が考案したレシピをご紹介します。

vol.8 地元のいちごでいちごのムースケーキ

誕生日会に提供して
大変好評でした!



介護老人保健施設 掬水
高島 美幸さん



今回は、地元「諏訪湖いちご園」さんのいちごを使用しました。デイケアでは毎年いちご狩りでお世話になっており、利用者様も「このいちごは甘くておいしい」と大変楽しみにされています。ペースト状にしてしまうので、規格外品のいちごを選びました。

今回の旬食材



いちご

主な栄養素 ビタミンC、葉酸、食物繊維、ポリフェノール

効能 ビタミンCの風邪予防・美肌効果



材料 (3人分)

- よくつぶしたいちご …… 45g (市販のいちごソースでもOK)
- ゼラチン …… 3g
- 水 …… 5cc
- 牛乳 …… 20cc
- 生クリーム …… 60cc
- グラニュー糖(砂糖) …… 4g
- 飾り用のいちご …… 2個
- 飾り用のホイップクリーム …… 少々

つくりかた

- 1 水でふやかしたゼラチンを、温めた牛乳で煮溶かす。
- 2 生クリームにグラニュー糖を加えて、八分立てに泡立てる。
- 3 1にいちごのペーストを加えて2に混ぜたら、器へ移し、冷蔵庫で1時間くらい冷やす。
- 4 できあがったいちごムースに、飾り用のいちごとホイップクリームを乗せて完成。



ポイント
しっかり煮溶かすと
なめらかな
ムースに!

利用者様と
いただきます!

お誕生日会で提供したので、常食からムース食の方まで同じ形状で食べられるように、硬さに注意して作りました。規格外品で安く買った分、いちごは多め。「いちごの味が濃くておいしいね」と大変好評でした。

